

## 相模原市の広報さがみはら：AI 評価と今後の展望

日付：令和6年7月5日（金） 実施者：阿部善博 作成：Claude

相模原市では、広聴広報課を中心に、広報さがみはらの充実に向けて様々な意欲的な取り組みが行われてきました。今回、これらの取り組みについて、ChatGPT、Gemini、Claude という3つの生成AIを使って評価し、今後の方向性を検討してみました。

### ◆AIによる評価のポイント

1. **\*\*多角的アプローチ\*\***：紙媒体からデジタル版まで、幅広い選択肢を提供
2. **\*\*アクセシビリティへの配慮\*\***：多言語対応、音声読み上げ機能、視覚障害者向けの対応
3. **\*\*デジタル技術の活用\*\***：LINE や Yahoo!暮らしなどのプラットフォーム活用
4. **\*\*配布場所の多様化\*\***：公共施設だけでなく、駅やコンビニ、大学などでも配布
5. **\*\*ターゲット別アプローチ\*\***：子育て世代や高齢者向けのコンテンツ提供
6. **\*\*読者エンゲージメント\*\***：アンケートやインセンティブ提供による双方向コミュニケーション

### ◆改善の余地

1. SNS のさらなる活用（Instagram、Twitter など）
2. ユーザー生成コンテンツの活用
3. データ分析の活用
4. パーソナライズされたコンテンツ推薦

### ◆AIが提案する新たな取り組み

1. AR（拡張現実）の活用
2. ポッドキャスト配信
3. 市民記者制度
4. インタラクティブなデジタル版
5. 地元企業とのコラボレーション
6. バーチャル市役所ツアー
7. SDGs との連携
8. 季節限定の特別デザイン
9. クロスワードパズルやなぞなぞの導入
10. VR イベント体験
11. 子ども向け特別版の作成
12. リアルタイムフィードバック機能

#### ◆今後の展望

相模原市の広報さがみはらに関する取り組みは、多角的かつ包括的で高く評価できます。特に、デジタル化への対応とアクセシビリティへの配慮が優れています。

今後は、以下の点に注力することで、さらなる改善が期待できます：

1. 各取り組みの効果検証
2. 限られた資源の有効活用
3. 継続的な施策の見直しと改善
4. 新しい取り組みへの挑戦（特に読者参加型企画、意見交換会、市内企業との連携、遊び要素の導入）
5. 市民、職員、専門家の力を活かす仕組みづくり
6. 生成 AI の効果的な活用

#### ◆最後に

自治体広報の本質的な役割とあるべき姿を常に意識しながら、意欲的に取り組みを進めていくことが重要です。

以上